

第1回 熊本市都市マスタープラン策定委員会 議事要旨

- I 開催日時
平成28年12月21日(水) 13:30~15:00
- II 開催場所
熊本市役所 9F 会議室
- III 出席委員 6名
両角委員長、相藤委員、佐藤委員、原委員、本間委員、松田委員
(欠席者: 上山委員、田中委員)
- IV 次第
 - 1 開会
 - 2 議事
 - ①熊本地震を踏まえた第2次熊本市都市マスタープランの見直しについて
 - ②その他
 - 3 閉会
- V 議事要旨

<事務局から、議事①について説明を行った>

1. 都市防災の方針の構成について

(両角委員長)

- ①改定では、基本方針の4本の柱を3本にした理由を伺いたい。
- ②現行の基本方針にある「危機管理体制の整備」が消えているが、改定ではどのように考えているか伺いたい。

(事務局)

- ①改定では、災害に強い多核連携都市を主眼に、更には分かりやすさを追求し、3本の柱とした。
- ②「危機管理体制の整備」については、改定では「(3) 市民・地域・行政の災害対応力の強化」に含めたところ。

(松田委員)

- ③防犯の観点を含む必要はないか？

(両角委員長、事務局)

- ③都市マスでは主に都市基盤整備の長期的な方向性を示し、防犯の観点については総合計画をはじめ他分野での計画において記載を行いたい。

2. 自然環境について

(原委員)

- ①平成28年3月に熊本市生物多様性戦略～いきもん つながる くまもとCプラン～が策定されたところである。このことから、大きな視点として、今後の基盤づくりでも重要である自然環境について、もう少し記載したほうがよい。
- ②都市マス(たたき)32頁より、「また、消費者の食に対する～必要があります。」の記載は見え消しになっているが重要なので記載しておいたほうがよい。
- ③都市マス(たたき)89頁より、「生物多様性に富んだ」という表現はそこまで言い切れるか疑問である。例えば、「盛んに行われている農水産業により、生物多様

性が支えられた」等の表現はいかがか？

(佐藤委員)

- ③都市マス(たたき)32頁より、カントリーエレベーター等については表現が詳細であり、他の項目とレベル感が異なっているので、再考したがよい。
- ④都市構造を考える上で、「自然空間」との連携を記載したほうがよい。

(事務局)

- ①都市マス(たたき)89頁より、上記計画を踏まえ、表現の修正を行ったところであるが、ご意見を踏まえ、再度検討したい。
- ②③④了解。

3. 電力・給水等について

(松田委員)

- ①「電力・給水の多重化」というキーワードの記述が必要と思う。

(両角委員長、相藤委員、佐藤委員、原委員)

- ②水の都である熊本らしい施策を展開することにより、まちの魅力向上、ひいては災害対応力向上に繋がると思う。
(施策例)井戸設置箇所の位置図作成、オープンスペースに手押しポンプの設置等
- ③熊本地震により井戸水の重要性が増したことから、井戸水設置の推奨及びその補助等の仕組みづくりが必要。

(事務局)

- ①了解。
- ②③このことについては、震災復興計画にも記載されている。今後検討する。

4. 交通ネットワークについて

(相藤委員、原委員)

- ①震災直後に大規模な渋滞が発生したことから、緊急時の迂回路等が必要と思う。

(両角委員長)

- ②今回の震災では、大分方面からの通路が分断されなかったことにより、運よくガソリン不足にはならなかった。このことや国家的課題である南海トラフ巨大地震等への対応などを踏まえ、九州横断自動車道延岡線の整備促進等のような広域的な視点を追記したほうがよい。

(事務局)

- ①本市では2環状11放射を目指すべき道路ネットワークとして掲げており、このネットワークを早期に完成させることが災害時の交通機能の確保につながると考えている。
- ②了解。

5. 受援計画について

(意見：本間委員)

- ①物資やボランティアの「受援能力」が機能しなかったことを踏まえ、このキーワードを記載する必要がある。

(回答：事務局)

①了解。

6. 道路拡幅について

(両角委員長)

①被災住宅の建て替えの補助要件は、原型復旧が原則である。このことから、防災上一定の道路幅員が必要としているのに関わらず、セットバックが必要な宅地について復旧時道路幅を広げる行為は補助要件に当てはまらないとされ、不合理を感じたという話を他自治体で聞いた。

(事務局)

①本市において、同様の事例はないが。他都市の事例・状況等について確認を行う。

7. 地区防災計画等について

(両角委員長)

①地区防災計画の記述は重要。

(本間委員)

②昼間は居住者だけでは防災機能が発揮できない恐れがあるため、事業所も含めた検討を行う必要がある。

(佐藤委員)

③震災後、耐震性貯水槽等の活用に手間取った（訓練不足）ことから、「日ごろの防災訓練」について記述したほうがよい。

(事務局)

①②③了解。

8. 住宅について

(本間委員)

①住宅施策に関連して、災害危険区域から安全な場所への住み替えについて記述をしたほうがよい。

(事務局)

①了解。

9. 広域連携について

(両角委員長)

①人口減少下で、どのようにして交流人口を増やすのかは各都市の喫緊の課題である。今年、大臣認定された九州圏広域地方計画においては、国際級の観光地を有することから「観光アイランド九州」の形成促進が掲げられている。熊本は九州のへそであり、あらゆる観光地を結ぶハブとなる。このようなことから、広域的な視点による周辺との連携について追記したほうがよい。

(事務局)

①了解。

10. 上下水道について

(両角委員長)

①上下水道の本管の老朽化が深刻である。インフラの耐震化は重要。

(事務局)

①了解。

11. その他

(両角委員長)

①分野別の基本方針の各項において、教育施設や公共施設等について、記載している。
この各項においても都市防災の方針に記載している内容の頭出しとなるような記載を行ったほうがよい。

(事務局)

①了解。

<事務局から、議事②として今後のスケジュールについて説明を行った>

12. 次回会議について

(事務局)

- ・1月末ごろに第2回策定委員会を開催する予定。本日の会議後に、お気づきの点があれば、1月10日まで都市政策課へお知らせいただきたい。

以上